

研究実施のお知らせ

国保旭中央病院では頸動脈ステント留置術が脳血流 SPECT 検査の認知症疾患特異領域解析結果に与える影響に関して、下記臨床研究を行っています。この研究では、2019年10月1日から2022年9月30日までの期間において、頸動脈ステント留置術の前後に2回以上脳血流 SPECT 検査を受けた患者さんの診療情報を使用させていただきます。ご自身の診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合は解析対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい

研究課題名	頸動脈ステント留置術が脳血流 SPECT の認知症疾患特異領域解析結果に与える影響に関する研究
研究代表者	P E T画像診断センター 鳥井原 彰
研究期間	当院倫理審査委員会承認日 ～ 2025年3月31日
研究の対象	以下に該当する方を研究対象とします。
	以下の期間において、当院で頸動脈ステント留置術の前後に2回以上脳血流 SPECT 検査を受けた患者さん
	対象受診期間:2019年12月1日～2023年3月31日
研究に用いる 試料・情報の種類	<input type="checkbox"/> 試料等 <input checked="" type="checkbox"/> カルテ情報 <input type="checkbox"/> アンケート <input checked="" type="checkbox"/> その他（画像検査情報）
研究目的・意義	<p>内頸動脈狭窄は脳梗塞の原因として重要であり、治療として内頸動脈へのステント留置術（CAS）がしばしば施行され、その術前・術後検査として脳血流 SPECT が行われています。脳血流 SPECT は認知症の精査としてもよく用いられており、疾患特異領域解析という手法で算出されるパラメータがその診断に有用と報告されています。認知症は高齢者でよく見られる疾患であるため、頸動脈ステント留置術の前後で施行された脳血流 SPECT で偶発的に認知症を示唆する所見を見かけることは稀ではありません。</p> <p>CAS はしばしば脳血流の分布を大きく変動させるため、脳血流 SPECT の結果も治療前後で変化します。この際、疾患特異領域解析の結果も変動して治療前に認知症が疑われた症例が治療後に正常化すること、逆に治療後に認知症を疑う所見が現れること、いずれも経験されます。すなわち、頸動脈狭窄の有無が解析結果に影響を及ぼしているものと思われそうですが、具体的にどの程度の割合でどのような変化が生じるのかは分かっていません。もし頸動脈狭窄の有無によって解析結果の傾向が異なるとすれば、患者さん毎に解釈の仕方を工夫しなければ認知症を誤診してしまうおそれがあります。</p> <p>この研究では CAS 前後の脳血流 SPECT を比較し、治療が解析結果に与える影響を検討することで、認知症の診断をより適切に行えることを目指します。</p>

<p>研究の方法</p>	<p>この研究は過去に実施された画像検査を振り返って評価、解析するものであり、研究のために被検者の皆様に新たに何かしていただくことはありません。脳血流 SPECT から疾患特異領域解析の結果を含め、血流に関わるデータを抽出し、CAS 前後でどのような変化があったかを統計的に解析します。</p>
<p>個人情報の取扱い</p>	<p>研究で使用したデータ類はPET画像診断センター内もしくは当院読影室内に保管し、外部への持ち出しは行いません。病院長に研究終了を報告してから5年間経過したのち、適切に破棄いたします。</p> <p>解析は匿名化したうえで実施し、被検者さんやそのご家族に危険や不利益が及ぶ可能性はありません。被検者さんから得られたデータを解析した結果を学会発表、論文出版等にて公表する予定ですが、いずれにおいても個人が特定されることはなく、プライバシーは保護されます。</p> <p>本研究は既に日常診療で実施されたデータを用いる観察研究です。匿名化(特定の個人を識別可)した上でデータを収集し、解析をおこなうため、新たに同意の取得は行いません。本研究に関しては病院ホームページに掲示することで周知を行います。本研究への質問や参加拒否をされる方は下記に連絡下さい。参加を拒否された場合でも、不利益を被ることは一切ありません。</p>
<p>本研究に関する連絡先</p>	<p>旭中央病院における研究責任者 PET画像診断センター センター長 鳥井原 彰</p> <p>臨床研究支援センター [電話] (平日 8:30~17:15) 0479-63-8111 (代表)</p>